

tant, dangerous は it を主語にとり、sure, afraid は人を主語にとっているのであろうか。

(25)(26)の文はすべて話し手の心的態度を表しているが、it is . . . that のパターンをとる *apparent-type* は、話し手の主観的な心的態度ではなく、何か客観的な、だれでも共有するような心的態度であることを表しているのに対して、人+is that のパターンをとる形容詞 (*sure-that-type* と呼ぶことにする。sure は 4.2.2.2 でみるように to do をとる場合の代表的形容詞でもあるために、that 節をとる用法の場合は *sure-that-type*、to 不定詞をとる場合は *sure-to do-type* とよぶ) は主語の主観的な心的態度を表すからであると考えられる。*apparent-type* の形容詞は客観的 (OBJECTIVE)、*sure-that-type* の形容詞は主観的 (SUBJECTIVE) な意味をもっていることの反映で、それぞれ it を主語にとり、また人を主語にとると考えられる。

#### 4.2.2.2 人主語の性質

形容詞の性質によって、不定詞で表わされた行動が起こるであろうということについての心的態度が、文の主語の心的態度 (SUBJECT'S ATTITUDE) である場合と、話し手の心的態度 (SPEAKER'S ATTITUDE) である場合がある。(27a) が前者で、(27b) (28a) (28b) が後者である。

(27) a. I am *sure* he will come.

b. He is *sure* to come.

(28) a. It's *likely* that he will be late.

b. He's *likely* to be late.

(27b) (28b) のような場合は話し手の心的態度を表しているのであるから、

(29) a. It's *sure* to rain.

b. That is *sure* to happen.

c. That is *likely* to happen.

のような人以外の主語をとることもできる。*sure-to do-type* の形容詞は certain, fortunate, likely, possible, sure といったところである。certain の反意語である uncertain は「心的態度」形容詞ではなく、「判断」の形容詞であり、it is Adj. that のパターンはとらない。

### 4.3 判断の形容詞の下位区分

#### 4.3.1 客観的 (OBJECTIVE) 判断と主観的 (SUBJECTIVE) 判断

4.2.2 で見た、it 主語をとる場合は客観的 (OBJECTIVE)、人主語をとる場合は主観的 (SUBJECTIVE) という区別は、判断の形容詞にも当てはまる。(30) の it を主語にしたパターンは、話し手の判断に客観性をおよびさせて述べる形式である。

(30) a. It is *dangerous* for John to swim across the river.

b. It was *silly* of him to believe her.

これに対して、(31)は話し手が主語についての判断をする表現である。

(31) a. John is *easy* to convince.

b. John is *silly* to do such a thing.

it を主語にしたパターンをとるものがすべ自動的に人を主語にしたパターンでも表現できるということにならない。*tough-type* の形容詞を改めてリストしておく。

*tough-type*: difficult, easy, expensive, hard, tough, etc.

4.1.2 でも述べたが、*dangerous-type* のうち難易 (DIFFICULTY) の意味をもつものだけが名詞の主語をとった主観表現が可能である。それは、一般的に話し手が直接的に文主語の人について判断を下すという表現を避けたいという気持ちから来るものと考えられる。ひとつの例として kind をとりあげる。

(32) It's really *kind* of you to let us use your pool. [LDCE<sup>3</sup>]

の例のように、kind は人について判断をする意味をもっているが、現代英語では、

(33) You are really *kind* to let us use your pool. は普通の表現ではなく、親切な行為に対して礼を言う表現として、

(34) That's very *kind* of you.

の形をとるのが普通になっている。(34)の that は、文脈から明らかのある種の親切な行為を受けたもので、成句化しているが、意味の上からは人についての個人的判断であることにかわりない。

kind が人についての話し手の主観的判断を表すパターンをとるかどうかを BOE で検証してみよう。人を主語にとり to 不定詞を従えた例は、すべ